

桜 甫 会 会 報



2011
おいでませ！山口国体
おいでませ！山口大会
君の一生けんめいに会いたい



(クライミング強化選手)



(アーチェリー強化選手)



(広報ボランティアの皆さん)

本年10月に開催される「おいでませ！山口国体・山口大会」に向けて、国体強化選手の支援、大会ボランティア参加等の取組を進めています。県大生の活躍にご期待ください！

私事、既に老骨の身、意外、
望外のことではございました
が、過日平成二十二年五月の
総会に於いて役員改選により、
会長のお役目をいただきまし
た。大役で、ためらいも大き
かったのですが、精一杯つと
めますのでどうぞよろしくお
願い申し上げます。

報告のため、本館北側の学長室
へ参りましたら、壁面に初代学長
近藤先生、続いて香川先生、田
中巣先生と歴代学長の顔写真
が掲げられていました。なんと
現在の江里学長先生に至るま
ですべての諸先生方にご縁があ
りご指導いただいた数々が浮か
び上がり、本当に感無量でした。

白石にありました山口高女
のかなめ会館から山口女専、短
大、女子大、県大、そして現在の
独立法人の大学に至るまでの長
い道のり。自分自身を振り返り
ましても、生徒・学生の頃、助手
時代、教員時代、同窓会と正に
私の人生そのものと大学と桜圃

愛を込めて

—ご挨拶を—

会長 福田百合子

会はびたり重なっています。

皆様方にとりましてもきっと青
春の一番大切な時期と、宮野桜島
の大学は分ち難く共存しているの
ではないでしょうか。

その大学は、本年七十周年の節

目を迎えました。記念事業推進委
員長江里理事長からも「桜圃会の
格別な物心両面にわたる『協力を』
との熱いメッセージが寄せられまし
た。五月の総会、前日の式典と諸
行事に是非ご参加下さいませ。

これからも「桜の森」の育成、後
輩学生たちへの支援と融和、地域
への感謝と奉仕、未来への展望と実
現を、同窓生として、私たちの大
切な大学のために、ささやかなが
ら継続し、実行しようではあります
せんか。

微力ながら、そのかけ橋として
力を尽くしますので、重ねて、よろ
しくお願い申し上げます。

(昭和23年国語卒)

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会
（事務局）〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095
メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
印 刷：(株)マルニ

Vol.59

平成23年2月10日発行

創立七十周年記念事業 —新たな飛躍をめざして—

理事長(学長) 江里 健輔



一九四一年(昭和十六年)に山口県立女子専門学校として産声を上げた本学は、本年五月に七十回目の開学記念日を迎えます。

少子化の進行により、大学が学生を選ぶのではなく学生に選ばれる、いわゆる「大学全入時代」を迎える中、本学としては、この創立七十周年を、未来に向けて飛躍

を図る上でステップ台にしたいと考えています。

このため、年間を通じて創立七十周年記念事業を開催し、本学の存在を強くアピールしていくことにしています。

五月二十一日には、本学講堂で創立七十周年記念式典を開催します。記念講演の講師には、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクト・マネージャーを務められた川口淳一郎さんをお迎えする予定です。

本学の歴史を物語る資料・写真の展示や、キャンパスツアーの実施も企画しており、本学の昔と今を味わつて頂けるのではないかと思

います。

また、地域に出かけての特別公開講座を開催するとともに、地域貢献型大学としての基盤を創るために、六十周年記念に設置した「研究活動支援基金」を継承・発展させる形での「(仮称)さくらの森夢基金」の設立も検討しています。

人々を魅惑して止まない競技スポーツは常に人生を変える魔力、容易に善悪の判断を許さない魔力をその深淵に湛えている。ただ、競

技スポーツは常に人生を変える魔力、容易に善悪の判断を許さない魔力をその深淵に湛えている。ただ、競

国体への取り組み —至福の時に抱かれることを期待して—

国体支援チーム
基礎練習強化担当教員 青木 邦男

二〇〇六年(平成十八年)から始まる第二期中期計画の策定準備を進めておりましたが、第二期中期計画では、期間中のキャ

ンパス移転も視野に入れながら、存在感のある地域貢献型大学を実現していくことが大きなテーマとなります。

そうした競技スポーツの魅惑と魔力にとらわれ、才能の神に祝福される至福の感動を得ることが許される。

そのためにも、この創立七十周年記念事業の成功に向けて全力で取り組んでまいりますので、卒業生の皆様方の絶大なる

ご支援をお願いいたします。

これまで、本学では国体に

出場する選手や国体強化選手がおり、緩やかな形で有形・無形に学生(選手)への支援がなされてきた。こうした実績のもとに、平成二十一年度新入生として、クライミングとアーチェリーに全国レベルで活躍が期待される有望な学生(選手)が入学したことを一つの契機として、副学長をチーム・リーダーとする「第

一回山口国体支援プログラム・チーム会議」が設置され、本格的に国体強化選手への支援が開始された。その具体的な支援内容は(1)強化種目、(2)選手の育成、(3)施設設備、(4)ボランティア活動の参加、(5)広報活動等々を強化・促進し、選手の競技力の強化と環境整備を図ることである。選手の育成では①基礎練習強化、②食生活の指導・健康管理の確保、③メンタル・サポート等に、それぞれの領域で科学的な知見・知識と実践的経験をもつ本学教員が指導に当たっています。

施設設備ではクライミングの練習施設として体育館内・外壁にクライミング・ウォールとボルタリング・ウォールが設置され、アーチェリーでは看護学部棟(新校舎)奥の山側高台に七〇mの距離を有するアーチェリー練習場が整備された。選手は併設された部室と安全管理がきめ細かくなされた環境で日々練習に邁進している。

また、選手の専門的なトレーニングのために、既存のトレーニング室の床面積を一倍に拡張し、専門的なトレーニング機器・器具が備え付けられた。選手はもとより一般学生もこの新トレーニング室と機器・器具を大いに活用している。

最後に、本学の平成二十一年度国体強化選手は岡村梢(社会福祉学科四年)、笠井あゆみ(社会福祉学科四年)、重永織江(栄養学科一年)、藤本明日美(文化創造学科一年)、松原なみほ(国際文化学科一年)(以上、アーチェリー)、

星野千鶴(アーチェリー)、山口県立大學生として、人間性と学的専門能力を高めながら、競技生活に没頭できるように大学は支援を行っている。

その取り組みを紹介しよう。

これまで、本学では国体に



第三十一回 公開講座

講師 脚本家 福田 靖 氏

『龍馬伝』に込めた想い

第三十一回を迎える桜圃会公

開講座は、十二月十七日（金）脚本家、福田靖氏をお迎えして、「『龍馬伝』に込めた想い」と題して開催された。初めに挨拶に立たれた江里健輔名誉会長から、創立七十周年を迎える山口県立大学の長い歴史の中で、そのほぼ半分も

の期間続けられてきた公開講座の重みの上に立って、新しい時代への息吹を感じていただきたいという願いが語られた。この公開講座はまた、山口県立大学客員教授特別講義ともなっている。講師の福田靖氏は、自分のカラーを貫き、司馬遼太郎氏の描いた「龍馬がゆく」とは異なる龍馬像を求めて、二〇〇五年から仕事を始めた。テレビ放映される四

田靖氏は山口県周南市の出身である。学生のためにと語つてくださった自らの人生の軌跡は、まさに一遍のドラマを観るよう

人 事 異 動

■退職

三宅 義子 国際文化学部教授
岩本テルヨ 看護栄養学部教授
小川 全夫 大学院健康福祉学研究科教授
市村 孝雄 大学院健康福祉学研究科教授
吉木 伸行 附属地域共生センター助教
山本 武 プロジェクト支援室特任教員
関屋 建三 プロジェクト支援室特任教員
萬井美貴子 看護研修センター主任教員

■新任

吉村 耕一 看護栄養学部教授
草間かおる 看護栄養学部准教授
大河原 修 附属地域共生センター助教
山中 直子 看護研修センター主任教員
篠原 久恵 看護研修センター専任教員

■事務局職員転出

伊嶋 正之 退職
村田 武彦 土木建築部都市計画課
松下 良三 柳井健康福祉センター
栗林 俊一 退職
塩田 裕子 土木建築部監理課
山本 和弘 退職
原田 美栄 農林水産部農村整備課
光本 恵子 やまぐち総合教育支援センター
田中 清弘 総合政策部広報広聴課
後藤 勝之 退職

■事務局職員転入(・法人採用)

・丸山 紘里 企画グループ主事
・小林 亮彦 生活支援グループ主任
・三浦 理恵 生活支援グループ主任
・松岡 光信 総務管理部長
・後藤 勝之 総務グループ主査
・橋本 あや 総務グループ主任
・木下 拓之 人事グループ主査
・三宅 早苗 教育研究推進室主事
・宇田川 輝 教育研究推進室特任教員
・河内麻沙美 経営企画部財務グループ主事

(昭和56年児童文化卒 岩野記)

(昭和51年被服卒 岡村記)

(昭和51年被服卒 岡村記)

年年前のことである。まず、キャストを福山雅治氏と定め、「成長する龍馬像」を考えだし、龍馬に関わる人物として岩崎弥太郎を発見して、登場する三百名近くの人間を描ききったそ

うである。信条は、①わかりやすいこと、②テンポがよいこと、③笑いがあること、④ご存じ龍馬ものエピソードは一切入れないこと、⑤すべての人物を個性的にすること。その思いが伝わる

講演であり、何時間でも聴き続けていたいお話であった。「この世に生まれたからには、命を使いきれ」の言葉通り、今後のご活躍が目に浮かぶような素晴らしい脚本家との出会いとなつた。

本年度の情報交換会は、二回開催された。

一回目は桜圃会総会の前日である五月二十二日に開催され、各支部長と理事が出席した。

まず大学よりキャンパス移転について報告があった。県の税収が減っている現状で、微妙な状況になつていて、施設の中期計画に基づいて、施設のあり方の検討中。また本館のあるキャンパスをバイパス側に移転すると共に、既存の施設をいかに有効に使うかを考えていかなればならないとのこと。

次に開学七十周年記念事業について説明があった。来年が開学七十周年の節目となる。記念事業を行うことにしてい

るが、これから検討組織を立ち上げる状況。今の時代にふさわしいものになるよう考えているといされた。また大学より開催期日や事業内容について意見を求める

ことでの桜圃会へも協力をお願ひされた。大学だけではなく地域も関わるもののがよい等の意見が出された。

二回目は十二月十八日に開催された。「桜の森」の寒肥やりの後、豚汁とおむすびをいただきながら、今回の話題はキャンバス移転について。大学はキャンバス移行構想について、県の了解を得て記者発表を行つた。また十二月の県議会一般質問では、大学の存亡の質問に対し、県知事が「来年度に整備構想を策定したい」と答弁されたとの吉報を聞くことが出来た。

平成22年度 大学との情報交換会

て。大学はキャンバス移行構想について、県の了解を得て記者発表を行つた。また十二月の県議会一般質問では、大学の存亡の質問に対して、県知事が「来年度に整備構想を策定したい」と答弁されたとの吉報を聞くことが出来た。

平成22年度 桜園会総会開催

第六十六回桜園会総会が平成

二十二年五月二十三日(日)ホテル
ニユータナカにおいて131名の出席を得て開催されました。

司会の西山香代子さん(平成21年国際文化学研究科修了)の開会の辞に統いて、吉村京会長より「教育が大変な時代だからこそ、大学の存在を強く感じる。母校を懐かしむ心を大切にし、(大学)のパートナーとしての(桜園会)にしていきたい」と述べられ、江里健輔名誉会長からは、「卒業生がもつと大学と関わることが今後更に

ういう姿であれば美しいか、そのために今何をすべきかを考える事が必要」とのお言葉がありました。

又、今総会をもつて吉村京会長は会長職を辞され、福田百合子先生が新会長に就任されました。十年にわたり桜園会を支えていた吉村京会長へ、原田副会長から感謝の言葉と花束が贈呈されました。

講演は、山口県立大学国際文化部准教授 山口 光先生による「文化を創造するものづくりの世界」と題して、地域から生まれるデザインや企画プロデュースについてお話ししていただきました。

(平成14年環境デザイン卒)

附属郷土文学資料センター からのお願い

小橋記

地域との関わりの中で制作された「萩ガラス」や木材を使用した「小物家具」、学生との活動について等、ユーモアを交えながらお話を聞いていただきました。文化を受け継ぐことも新しくすることも大事なデザインであり、地域特有の個性を生かすことが大切であると語り、地域振興に大学が関わることについて、豊富な実体験や商品

を通じてお話ししていました。講演終了後も(会食後も)、先生が持つてこられた商品に多くの方が殺到し、黒山の人だかりができていました。



平成21年度桜園会会計収支決算書 H22.3.31(単位:円)

科	目	21年度決算額
総 収 入		
越 金	5,276,431	
常 会 費	2,462,000	
本 部 入 会 金	5,148,293	
事 業 負 担 金	740,000	
雑 収 入	3,665	
合 計	13,630,389	

支 出	
会 議 費	882,302
支 援 助 費	432,999
報 作 成 費	949,100
公 開 講 座 費	1,231,058
桜 園 会 賞 費	344,596
桜 の 森 育 成 事 業 費	398,072
入 会 記 念 品 費	59,025
旅 費	326,690
通 信 費	1,322,650
印 刷 費	151,520
事 務 局 運 営 費	26,775
退 職 給 与 引 当 金	2,407,953
情 報 管 理 費	200,000
備 品 費	25,880
消 耗 品 費	23,961
雜 費	267,990
特 別 会 計 に 緑 入	102,930
予 備 費	200,000
合 計	9,353,501
次 年 度 緑 越 金	4,276,888

事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っています。会費の納入にご協力下さい。

◆桜園会本部経常会費納入(年間千円)をお願いいたします。

*65歳以上の会員で希望される方は終身会員になることができます。

終身会費は一括払い一万円です。

◆振込用紙には会員番号(封筒の宛名シール右下)・卒業年・科・勤務先・送金明細・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)を必ずお書き下さい。

コンピューター処理を行いますので、郵便番号及び住所(番地、建物名、部屋番号)を正確にご記入下さい。

*住所、勤務先の変更、改姓の際もお知らせ下さい。

◆ご連絡・ご質問の窓口

山口県立大学同窓会桜園会事務局

住 所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時~17時)

E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学のホームページからもアクセスできます。

(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

第10回 桜圃会賞
第十回 桜圃会賞奨励賞
受賞報告

マンドリンクラブ
辻田 祐子

この度、桜圃会奨励賞を頂き
ました、山口県立大学マンドリン
クラブです。



私達は福祉施設を初めとした地域の施設等で演奏を行い、地域の方々にマンドリン音楽の楽しさを知って頂き、またマンドリーナー達は多くの人々に知って頂くために活動をしています。

私達マンドリンクラブは県立大学でも伝統のあるサークルで、平成二十二年度には四十五周年記念演奏会を開催いたしました。先輩方から受けついだ想いを演奏にのせて、皆様にお届け出来ればと思っております。

これからもマンドリン音楽の楽しさや感動を少しでも多くの方々に知って頂くために、大学でのイ

ベントや地域の施設での積極的な演奏活動を続けていきたいと考えております。そのためにも、自分たちの音を磨き、今まで以上に沢山の人を笑顔にする演奏ができるように、練習に励んでいきたいと思います。

これからも温かく見守って

頂ければ幸いです。ありがとうございました。

(文化創造3年)

タンデムサークル

清水あかね

この度、桜圃会奨励賞を受賞しました、タンデムサークルです。このような賞をいたしました。このよ

うな賞をいたしました。

(社会福祉4年)

学生代表 内園 愛

自転車のことです。平成二十一年度に結成されたサークルで、「風を切って走ろう」をテーマとし、タンデムの普及を行い、県内の中の盲人福祉協会や、点訳友の会の方々との、

シート企画 サイクリングイベ



自転車に乗りたくても乗れない方々から、「タンデムに乗離れたことが喜びや自信につながりました。」などという声が聞かれ非常に喜ばれています。

今後も学外で行う活動を継続し、より多くの人に「風を切って走る」感動を伝えることができればと思っています。まだ未熟な私たちですが、これからも温かく見守っていただければ幸いです。ありがとうございます。

今後も培った知識と経験を基に、子ども達にとって食育がもっと身近な存在となります。



これまで培った知識と経験を基に、子ども達にとって食育がもっと身近な存在となります。

地域の方々との交流を大切にしながら、あらゆるイベントに積極的に取り組み、個々人の創造性を高めながら芸術活動に励みたいと思います。これらの活動も精力的に活動を行っていきたいと考えています。ありがとうございました。

本チームの活動は、小学生を対象とし、楽しみながら食への意識や行動の変化に繋がるオリジナルのプログラム開発を目指しています。

(栄養3年)

SCC(桜島クリエイターズクラブ)

植木ひとみ

この度、桜圃会奨励賞をいたしました桜島クリエイターズクラブ「SCC」です。成立了ばかりの同好会ですが、このような素晴らしい賞をいたしましたことを誠に嬉しく思いました。



SCCは平成二十年に創作活動が好きな学生が有志で集まり、型の食育プログラムを開発、実施しました。始めは純粹に芸術を楽しむためのクラブでしたが、大学の文化祭などで作品展をしていくうちに、外へ出て作品展をしていくうちに、地域交流といった新しい目的ができあがり、アートふる山口、山口国体PRキャンペーン、菜香亭の市民ギャラリー、宮野駅看板制作などを、学内を飛び越えて創作活動に取り組んで参りました。

SCCは平成二十年に創作活動が好きな学生が有志で集まり、型の食育プログラムを開発、実施しました。始めは純粹に芸術を楽しむためのクラブでしたが、大学の文化祭などで作品展をしていくうちに、外へ出て作品展をしていくうちに、地域交流といった新しい目的ができあがり、アートふる山口、山口国体PRキャンペーン、菜香亭の市民ギャラリー、宮野駅看板制作などを、学内を飛び越えて創作活動に取り組んで参りました。

に活かせ

るよう、親子参加型の食育

活動が好きな学生が有志で集まり、型の食育プログラムを開発、実施しました。始めは純粹に芸術を楽しむためのクラブでしたが、大学の文化祭などで作品展をしていくうちに、外へ出て作品展をしていくうちに、地域交流といった新しい目的ができあがり、アートふる山口、山口国体PRキャンペーン、菜香亭の市民ギャラリー、宮野駅看板制作などを、学内を飛び越えて創作活動に取り組んで参りました。

す。

「思いを形に！」

米重 敏明

「自分が入りたいと思える施設を目指しなさい」福祉施設に勤めるとよく言われる言葉の一つです。そこで質問、あなたが今、自ら望んで入りたい施設はありますか？

五年前、大学卒業後から勤めて

いた病院を退職し、介護付有料老人ホームを設立しました。勤務先ではMSW（医療ソーシャルワーカー）として勤務していましたが、急性

後どうしても自宅に帰れない患者様の受け入れ先が無いという現

はじめまして。私たち二人は、「大学生起業家」として、在学中にマンガデザイン会社manga space.LLCを立ち上げました。

国際文化学部で、語学教育や異文化コミュニケーションについて学び、一年間のユージーランド留学をきっかけに、「物事を分かりやすく、楽しく、より簡単に伝える」ための「マンガ」を使つ



マンガで起業！

－新たなコミュニケーション手法を山口から世界へ－
manga space.LLC(マンガスペース)

酒井 悠希
中村 友香

たコミュニケーションデザインを企画・制作する事業を思いつきました。長い文章で、難しそうに書かれたパンフレット・テキスト・広告チラシを「マンガ」になおし、全体を見やすくデザインする、という新たなコミュニケーション手法を提案しています。マンガであれば、分かりやすく、楽しく、簡単に情報が伝わり

教育にもビジネスにも、情報



(平成22年国際文化卒)

HPアドレス:<http://www.manga-space.jp/>

現実を知るほど、妥協したくなっている「一心のもと」「自分が今入りたい施設とは？」というテーマを追求することに。そして、自分なりの「一つの答え」として、病院や施設ではなくホテルや旅館に近いサービス業を手本に、ホテルのホスピタリティと家庭の温かさ、この相反する二つの融合を目指すという結論に至

ます。あなたが今入りたい施設を目指し日々努力しています。(平成13年社会福祉卒)マニッシュに新規施設を開設します。あなたが今入りたい施設を目指し日々努力しています。マニッシュは、新規施設を開設します。

起業のきっかけは、在学時代の留学経験にあると前述しましたが、もともと「日本語教師」のアシスタントとして現地の教壇に立っていた私たちは、当時の日本語クラスで使われていた教科書に着目しました。

世界的に有名な日本のマンガやアニメは、日本語を学ぶ人たちの学習意欲を引き出すものもあります。長文だけでも古めかしい内容の教科書を二本を伝える教科書として、現地の教員と共に編集し、大反響を呼びました。

大学時代に培った、「広く見る目・深く考える頭・柔軟に捉える心」を大切に、これからも事業家として活躍していきたいと思います！

平成23年度 桜園会総会のご案内

■日 時 平成23年5月22日(日)
午前10時～午後2時
■場 所 ホテルニュータナカ
山口市湯田温泉 2-6-24
TEL083(923)1313

■講 演
(演題)
「大内氏の食・毛利氏の食」

(講師)食文化研究家
江後 迪子先生

■会 費
5,000円
当番幹事はS40・45・50・55・60・H2・7・12・17・22年卒業のクラス幹事さんです。
*出席ご希望の方は、5月11日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。

支部長・理事 合同会議報告

しい会となり、今後積極的行事参加をしたい、等々嬉しい話もお聞きしました。

五十年目の里帰り

千住 紀子

総会前日の平成二十一年五月二十二日(土)十六時から、ホテルユータナカにおいて、第十五回桜園会支部長・理事合同会議が開催されました。

県外から七支部、県内から十一支部の各支部長それに十六名の理事が同席しました。

吉村会長のあいさつに続き、梅地副会長の司会により、各支部長から自己紹介を兼ねた現状報告がされました。

総会を開催しても参加者が少なく、メンバーが固定化していること、高齢化で支部の運営に困難をきたしていること、次の役員を引き受けれる人がいないこと等、多くの支部での共通の悩みが語られました。

そうした中で近隣の支部との交流を試みて総会出席者が増え盛りに開催できること、これまでは支部運営に余り協力できなかつたが、退職を機にお返しをしたいたが、わからなまま役員を引き継いだが、一同協力して大変楽

けられている同窓生の集まりを中心のよりどころにされている先輩のお話も出て、改めて継続の必要性を感じ、密かに誓われた支部長もおられたのではないで

しょうか。

吉村会長より帰省の同窓生の、キャンバスがわかりにくいとの意見を経営審議会に上げて早速対応されたこともあり、同窓会を通じて声を上げることで、解決出来ることもあるとの報告がされました。

年一度のこの合同会議が、これから支部運営になにがしかの力と勇気を与えたのではない

「みやの会」と称するクラス会を毎年のように持回りで開催、今回は久しぶりに山口に還ってきました。卒業後五十年、古希という節目に、母校への里帰り訪問となりました。

八月の暑い日でしたが、キャンバスも宮野の里も昔と変わらず

緑いっぱいに私たちを迎えてくれました。建物はすっかり新しくなりましたが、通された調理実習室の懐かしい匂い、その中

で乃木章子先生を囲んでのひとときは忘れ難いものでした。

現在の大学の様子なども話して下さいましたが、びっくりしたのは当時使っていた古い調理

棚水寮、桜の森、唯一当時のままの講堂等を、事務官の津田泰宏様が案内して下さいました。

寮から学舎への小径、講堂裏は夏草の匂いと樹々を渡る風にあれ、眼を閉じれば二十の青春の日々がそこにありました。こ

こはふるさと、私の出発点、誰もがそんな思いを胸に刻んだこ

とです。そのお心遣いに感激しつつ皆で手にとつて懐かしんでいるうちに、炭火をおこすことから始めた調理、冬には天窓からチラチラ雪が降ってきた実習室へとたちまちタイムスリップしました。また若く溌剌とした乃木先生と同窓であると知つて、恩師の先生方との思い出等を語り合えたのもうれしいことでした。

五十年の歳月を巻き戻して、熱いエールとパワーを貰つて、また心新たに歩が踏み出せそうです。

乃木先生、津田様、わが母校ありがとうございました。

(昭和36年食物卒)



(昭和37年国文卒 矢儀記)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員

旧職	矢儀 良三	H21.1
旧教	吉村 昭男	H21.4.30
旧職	白根 宏	H21.10.10
◆会員		
S26児童	島岡 君子	H19.1.5
S25生活	原 和子	H20.3.6
S35食物	久岡 聰子	H20.7.4
S49食物	今村 和子	H20.12.25
S58児文	堀米 瞳子	H20.12
S28被服	石田多恵子	H21.4.27
S30被服	神部美美子	H21.5
S23被服	義永 繁子	H21.7
S30国文	有田恵美子	H21.8.3
S23育児	須藤ヒサエ	H21.8.17
S28国文	河村 郁江	H21.9.5
S32児童	大石 節子	H21.9.17
S24被服	石井 キミ	H21.9
H15栄養	陶山 京子	H21.10
S41国文	宮内 民代	H21.12.28
S24育児	平山 禮子	H22.2.8
S25育児	中山スミ子	H22.3.3
S28被服	原田 サト	H22.3.30
S23国語	都野 清子	H22.4.15
S43食物	円光 澄恵	H22.5
S59食管	横引 陽子	H22
H19大学院	神田 裕美	H23.1.3
S18家事	泉本 玲子	
S45保育	木阪 泰子	



母校への思い あらたに

広島支部 松原 正美



ことが、私の責務である」と力強く語られました。

福田会長も「開学七十周年記念事業に全力で取り組んでいた。広島支部もぜひ協力を……」と熱く呼びかけられました。

会員の自己紹介では、いまもなお自己の人生の質を高めんと、真摯に努力されている姿に、深い感銘をうけました。

最後に、なつかしの山口女子大学学生歌を合唱して散会。母校への思いをあらたにした清涼の一日でした。

心占める母校の位置に
おどろきぬ同窓会終へ
ひとり歩むときの

(昭和33年国文卒)

支部総会を顧みて

防府支部 中村真理子

十月三日(日)小雨模様の中、
デザインプラザ防府で、第二十七回支部総会を開催しました。

午前の部では、国際文化学部の田村洋先生のご講演をいただき、弥生時代の笛の素朴な音色や、様々な趣のあるCDの演奏に魅了されました。人との出会いや交流の大切さを、ユーモアやエピソードを織り交ぜながら、熱

桜圃会支部リスト (平成21年12月現在)

支部名	支 部 長 名	支会員数(名)
関 東	藤崎 美智子(国文49)	856
東 海	藏重 文子(国文38)	141
近 畿	赤木 紗子(食物45)	663
広 島	松原 正美(国文33)	595
四 国	村松 幸子(食物35)	294
北九州	岡本 浪江(食物42)	459
福 岡	宗野 淑(被服39)	465
佐 賀	久保由美子(食物49)	132
大 分	栗屋 文世(国文44)	260
岩 国	片岡 郁子(国文41)	232
柳 井	植野 悅子(被服38)	229
下 松	清木 秩子(国文33)	331
徳 山	磯辺 治代(保育43)	368
防 府	中村 真理子(国文56)	465
山 口	中村 孝子(保育40)	1,420
萩	藤井 郁子(国文47)	161
長 門	中澤 允子(被服36)	132
宇 部	西村 通子(食物43)	825
小野田	嶋田 明美(食栄55)	182
下 関	川崎貴代子(保育45)	502

校から江里健輔学長、福田百合子会長をお迎えして、桜圃会広島支部総会をホテルグランヴィアにおいて開催しました。

今回は、初参加の方のために、準備や席次に少し工夫をしましたので、初めからなごやかで楽しい会となりました。

江里学長は「地域社会に役立つ、心豊かで優秀な学生を育成し、山口県立大学を存在感のある大学にしたい。そのためには、国道で分断されているキャンパスを統合する



編集後記

母校も今年、創立七十周年を迎えることになり、五九号はそのご案内も兼ねて、

少し早い発行となりました。江里健輔学長に熱い思いを叙して頂きました。

江里健輔学長に熱い思いを叙して頂きました。長い歴史に深く係わってこられた福田百合子新会長に抱負を寄せて頂きました。更なる発展を期して、同窓生も人ひとり母校への思いを繋げていきたいと思います。会報がそのお役に立てば幸いです。